

男女の一人称代名詞における 「本人の意識」と「社会的期待」との比較

—相手が初対面の人の場合を中心に—

金 秀 容

1. はじめに

前号では、男女の一人称代名詞の使用についてのアンケート調査に基づき、くだけた場面である「相手が親しい友達の場合」を取り上げて、〈本人の意識〉と〈社会的期待〉の比較を行った。本稿では、同様の比較をあらたまった場面である「相手が初対面の人の場合」について行った後、両場面の分析で明らかになったことをまとめる。

1.1 調査方法及び資料処理

2003年6月～7月にかけて、20代男女(東京都立大学生：女性(142)、男性(147))とその親である50代男女(女性(85)、男性(63))、合計437名を対象にアンケート調査を行った。アンケートの調査項目は、大きく〈自分の言語使用〉という欄と〈他人の言語使用〉という欄に分かれている。質問の内容は同じであるが聞き方は少し異なる。自分の言語使用の欄では、話し相手の性に分けて「(誰誰)に対してあなたは自分のことをどういいますか」と質問し、他人の言語使用の欄では話し相手の性とは関係なく、20代男女・50代男女それぞれを対象として取り上げ「(その対象)なら、自分のことを言うのにどんな言い方がふさわしいですか」と質問した。形式は選択肢式であり、「わたし」、「わたくし」、「あたし」、「自分」、「わし」、「ぼく」、「おれ」、「うち」から一つを選択するようにした。このようにして、自分の言語使用の欄から得られた回答は〈本人の意識〉として扱い、他人の言語使用の欄から得られた回答は〈社会的期待〉として扱って分析を行うことにする。なお、〈本人の意識〉に関しては、話し相手の性別による差が見られなかったため、本稿では話し相

手が女性の場合の結果のみで分析を進める。また、全てのデータは、カイ二乗検定の結果に基づいて解釈している(有意確率5%で解釈)。

2. 調査結果と分析

以下では、20代女性・20代男性・50代女性・50代男性の4グループの「相手が初対面の人の場面」についての調査結果を示し、〈本人の意識〉・〈本人の意識と社会的期待との比較〉・〈社会的期待の傾向〉という三つの観点から分析していく⁽¹⁾。

本格的な分析に入る前に、まず、丁寧度の認識において年代差が見られた「わたし」と「ぼく」に関して記述し、そこから得られた結果はこれからの分析の解釈に適用することにする。

2.1 「わたし」と「ぼく」の丁寧度の認識に関して

前号では、「わたし」と「ぼく」の丁寧度を4グループがどのように認識しているのかを、〈自分の言語使用〉についての回答結果から見てみた。その結果、「わたし」に関しては、女性の場合は50代女性よりも20代女性のほうが「わたし」をより丁寧な表現として認識しており、男性の場合は年代に関係なく基本的に「わたし」を丁寧な表現として認識していたが、特に20代男性が「わたし」を非常に丁寧な表現として認識していることが分かった。「ぼく」に関しては、50代男性よりも20代男性のほうが「ぼく」をより丁寧な表現として認識していることが明らかになった。

ここでは、〈他人の言語使用〉についての回答結果に基づいて、4グループの「わたし」と「ぼく」の丁寧度の認識の仕方をとらえてみたい。前号同様、もっとも丁寧な形式である「わたくし」を入れて、丁寧度の認識を調べることにする。相手が親しい友達の場面から相手が初対面の人の場面に移ることによって、「わたくし」・「わたし」・「ぼく」を選んだ割合がどのように変化するかに注目する。結果は、表1～表4にまとめた。グループごとに、選ばれた一人称代名詞と発話場面との関連性を見るためカイ二乗検定を行ったが、4グループ全てに有意差が現れた⁽²⁾。()の中は百分率を示す。

表1 20代女性に期待する「わたくし」・「わたし」・「ぼく」の使用に関して

	話し相手が親しい友達の場合				話し相手が初対面の人の場合			
	わたくし	わたし	ぼく	その他	わたくし	わたし	ぼく	その他
20女	2(1.4)	96(68.1)	0(0.0)	43(30.5)	11(7.7)	128(90.1)	0(0.0)	3(2.1)
20男	0(0.0)	87(59.2)	0(0.0)	60(40.8)	13(8.8)	126(85.7)	0(0.0)	8(5.4)
50女	1(1.2)	69(82.1)	0(0.0)	14(16.7)	40(47.1)	45(52.9)	0(0.0)	0(0.0)
50男	1(1.6)	45(71.4)	0(0.0)	17(27.0)	21(33.3)	40(63.5)	0(0.0)	2(3.2)

表2 20代男性に期待する「わたくし」・「わたし」・「ぼく」の使用に関して

	話し相手が親しい友達の場合				話し相手が初対面の人の場合			
	わたくし	わたし	ぼく	その他	わたくし	わたし	ぼく	その他
20女	1(0.7)	5(3.5)	10(7.1)	125(88.7)	9(6.3)	41(28.9)	74(52.1)	18(12.7)
20男	0(0.0)	2(1.4)	11(7.5)	133(91.1)	14(9.5)	64(43.5)	42(28.6)	27(18.4)
50女	0(0.0)	7(8.2)	29(34.1)	49(57.6)	25(29.8)	28(33.3)	23(27.4)	8(9.5)
50男	1(1.6)	4(6.3)	14(22.2)	44(69.8)	18(28.6)	31(49.2)	8(12.7)	6(9.5)

表3 50代女性に期待する「わたくし」・「わたし」・「ぼく」の使用に関して

	話し相手が親しい友達の場合				話し相手が初対面の人の場合			
	わたくし	わたし	ぼく	その他	わたくし	わたし	ぼく	その他
20女	4(2.8)	126(89.4)	0(0.0)	11(7.8)	54(38.0)	87(61.3)	0(0.0)	1(0.7)
20男	5(3.4)	121(82.3)	0(0.0)	21(14.3)	54(36.7)	90(61.2)	0(0.0)	3(2.0)
50女	2(2.4)	76(90.5)	0(0.0)	6(7.1)	61(71.8)	24(28.2)	0(0.0)	0(0.0)
50男	8(12.7)	48(76.2)	0(0.0)	7(11.1)	45(71.4)	18(28.6)	0(0.0)	0(0.0)

表4 50代男性に期待する「わたくし」・「わたし」・「ぼく」の使用に関して

	話し相手が親しい友達の場合				話し相手が初対面の人の場合			
	わたくし	わたし	ぼく	その他	わたくし	わたし	ぼく	その他
20女	3(2.1)	20(14.3)	20(14.3)	97(69.3)	39(27.5)	78(54.9)	14(9.9)	11(7.7)
20男	1(0.7)	23(15.8)	16(11.0)	106(72.6)	36(24.5)	81(55.1)	20(13.6)	10(6.8)
50女	0(0.0)	18(21.2)	21(24.7)	46(54.1)	38(44.7)	35(41.2)	6(7.1)	6(7.1)
50男	1(1.6)	15(23.8)	13(20.6)	34(54.0)	29(46.0)	26(41.3)	3(4.8)	5(7.9)

「わたくし」の使用に関しては、表1～表4から分かるように、相手が初対面の人になっても、20代が「わたくし」を選ぶ割合は50代に比べると、ずっ

と少ない。ここから、20代は「わたくし」の丁寧度を50代より高く位置づけており、非常に距離感のある一人称代名詞として認識しているように見える。

次に、「わたし」の使用に関してだが、女性に期待する「わたし」の使用を見ると、20代女性に期待する「わたし」の使用(表1)においては、相手が初対面になると、20代には「わたし」の割合が増えているのに対して、50代には「わたし」の割合が減り「わたくし」の割合が大幅に増えている。50代女性に期待する「わたし」の使用(表3)においては、相手が初対面の場面になると、4グループともに「わたし」の割合が減ってはいるものの、20代は依然として「わたし」を多く期待している。それに対して、50代は7割程度が「わたくし」を選び、「わたし」より「わたくし」をずっと多く期待していた。以上から、女性に期待する「わたし」の使用においては、50代より20代のほうが「わたし」をより丁寧な表現として認識していることが分かる。

男性に期待する「わたし」の使用を見ると、20代男性への期待(表2)においても、50代男性への期待(表4)においても、相手が初対面になると、4グループともにその割合が増えている。つまり、4グループともに男性が使用する「わたし」を、丁寧な一人称代名詞として認識しているということである。しかし、表2と表4には若干の差が見える。20代男性に期待する「わたし」の使用(表2)においては、相手が初対面の場合、20代女性は他のグループよりも「わたし」を選ぶ割合が少なく、その代わりに「ぼく」をもっとも多く選んでいる。ここから、4グループの中で、20代女性は20代男性の使用する「わたし」を、非常に丁寧な表現として認識しているということが考えられる。一方、50代男性に期待する「わたし」の使用(表4)においては、相手が初対面の場合、50代より20代のほうに「わたし」の割合が多く、それに対して50代には「わたくし」の割合が多く現れている。つまり、50代より20代のほうが「わたし」をより丁寧な表現として認識しているということである。以上から、男性に期待する「わたし」の使用をまとめると、全体的に4グループともに男性が使用する「わたし」は丁寧な表現であると認識していたが、その丁寧度の認識においては若干の差が現れた。20代男性の「わたし」使用に対しては20代女性が、50代男性の「わたし」使用に対しては20代が、

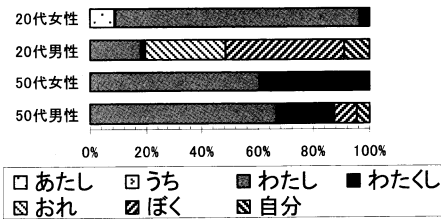
他グループよりも「わたし」をより丁寧な表現として認識していた。

男性に期待する「ぼく」の使用を考察する。20代男性に期待する「ぼく」の使用(表2)においては、相手が初対面の場面になると、20代には「ぼく」の割合が増えているが、50代には「ぼく」の割合は減っている。50代男性に期待する「ぼく」の使用(表4)においては、相手が初対面の場面になると、20代ではあまり大きな増減は見えないが、50代では大幅に減っている。さらに、両場面における「ぼく」の割合を見ると、くだけた場面においては50代のほうに、あらたまった場面においては20代のほうに、その割合が多く現れている。以上から、男性に期待する「ぼく」の使用においては、50代より20代のほうが「ぼく」をより丁寧な表現として認識することが分かる。

以上の結果をもとに、「わたし」と「ぼく」の丁寧度がどのように認識されているのかについて、〈自分の言語使用〉で明らかになったことと〈他人の言語使用〉で明らかになったことを関連付けてまとめると、次のようになる。「わたし」に関しては、〈自分の言語使用〉において、女性の場合は50代よりは20代のほうが、男性の場合は男性全てが、「わたし」を丁寧な表現として認識していたが、このような認識は他人の4グループに対する期待においてもほぼ同様に反映されている。また、〈自分の言語使用〉では見られなかった、女性の使用する「わたし」に対する男性の丁寧度認識、男性の使用する「わたし」に対する女性の丁寧度認識は、それぞれの同年代の人と同様であった。「ぼく」に関しては、〈自分の言語使用〉において、50代男性よりは20代男性のほうが「ぼく」を丁寧な表現として認識していたが、このような認識は他人の男性グループに対する期待にそのまま反映されている。また、〈自分の言語使用〉では見られなかった、男性の使用する「ぼく」に対する女性の丁寧度認識は、それぞれの同年代の人と同様であった。以上から、自分の言語使用において持っている「わたし」と「ぼく」の丁寧度に関する認識は、4グループともにほとんどそのまま他人の言語使用に対しても適応していることが分かった。そして、それぞれの同年代の人にも同様な認識が現れており、「わたし」と「ぼく」の丁寧度において年代差が大きいことが再度確認された。

2.2 4グループの本人の意識の比較(図1)

図1 本人の意識



全体: $\chi^2(18)=377.555, p=0.000^{**}$

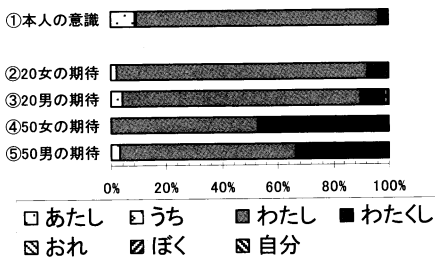
性差: $\chi^2(6)=191.263, p=0.000^{**}$

年代差: $\chi^2(6)=122.937, p=0.000^{**}$

「相手が初対面の人の場面」について4グループの本人の意識を比較すると、年代差と20代における性差が目立つ。年代差においては、20代より50代のほうが、選択肢の中でもっとも丁寧度の高い「わたくし」を多く選び、丁寧な言葉遣いへの認識が高いことを現している。これは特に50代女性に顕著である。20代の場合は、女性は「わたし」を圧倒的に多く選んでいるのに対して、男性は「わたし」も選んでいるが、それよりも男性形の「ぼく」と「おれ」を多く選んでいる。つまり、20代では、男女の一人称代名詞の使用における、従来からの典型的な性差が現れている。また、20代男性の場合は、くだけた場面で多く使われる「おれ」を約3割程度が選んでおり、「おれ」の使用範囲の拡大も推測される。

2.3 20代女性の一人称代名詞の使用に関して(図2)

図2 20代女性の一人称代名詞に関して



<本人の意識と社会的期待の比較>

①と②: $\chi^2(4)=10.730, p=0.030^{*}$

①と③: $\chi^2(6)=10.697, p=0.098$

①と④: $\chi^2(4)=70.517, p=0.000^{**}$

①と⑤: $\chi^2(4)=39.088, p=0.000^{**}$

<社会的期待の傾向>

②・③・④・⑤の比較

全体: $\chi^2(12)=78.175, p=0.000^{**}$

性差: $\chi^2(4)=7.167, p=0.127$

年代差: $\chi^2(4)=68.442, p=0.000^{**}$

2.3.1 本人の意識と社会的期待の〈ずれ〉

20代女性が使用するとして選んだ一人称代名詞①と、20代女性に対して、20代女性②・50代女性④・50代男性⑤それぞれが期待する一人称代名詞との間に〈ずれ〉が現れている。3グループともに、20代女性に対して、「わたくし」をより多く期待している。

2.3.2 社会的期待の傾向

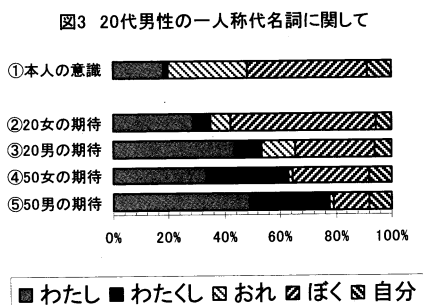
全体的に「わたし」と「わたくし」を主に期待しているが、その中で年代差が目立つ。20代より50代のほうが、「わたくし」を多く選んでおり、特に50代女性が多く選んでいる。

2.3.3 分析と考察

以上をまとめると次のようになる。20代女性の一人称代名詞の使用において、その本人の意識よりも社会的期待では「わたくし」をより多く期待し、より丁寧な言葉遣いを期待するという〈ずれ〉が生じている。このような期待は、50代、特に50代女性のほうに多く現れている。これは、相手が親しい友達の場合での解釈（前号参照）と同様に、50代が社会の大人として丁寧な言葉遣いを常識として身につけている結果、現れた傾向だと思われる。特に50代女性が丁寧な言葉遣いを常識としてより強く認識していると見られる。それに対して、20代女性が、高い丁寧度のため距離感を感じている「わたくし」（2.1参照）を、同性同年代の20代女性に本人の意識より多く求めたことは、これもやはり相手が親しい友達の場合での解釈（前号参照）と同様に、他人の20代女性を学生としてよりも社会人として認識しているからだと思われる。一方、20代男性は、4グループの中で、20代女性の本人の意識と最も近い傾向を見せている。20代男性は、20代女性に対して、丁寧な一人称代名詞として認識している「わたし」（2.1参照）を多く期待し、あらたまった場面なりの丁寧さへの期待は現れているが、他グループほど丁寧な言葉遣いへの期待は見られない。これは、20代男性回答者の多くがイメージする20代女性は、自分の身近にいる女子学生であるということを実していると考えられる。

なお、20代女性の一人称代名詞の使用に対する50代女性の期待は、50代女性の本人の意識と似ている。ここから、50代女性は自分と同様な言葉遣いを20代女性に期待しているといえる。

2.4 20代男性の一人称代名詞の使用に関して(図3)



<本人の意識と社会的期待の比較>

①と②: $\chi^2(4)=29.025, p=0.000^{**}$

①と③: $\chi^2(4)=38.571, p=0.000^{**}$

①と④: $\chi^2(4)=66.903, p=0.000^{**}$

①と⑤: $\chi^2(4)=77.060, p=0.000^{**}$

<社会的期待の傾向>

②・③・④・⑤の比較

全体: $\chi^2(12)=74.748, p=0.000^{**}$

性差: $\chi^2(4)=20.818, p=0.000^{**}$

年代差: $\chi^2(4)=50.631, p=0.000^{**}$

2.4.1 本人の意識と社会的期待の〈ずれ〉

20代男性が使用するとして選んだ一人称代名詞(①)と、20代男性に対して、4グループ(②③④⑤)それぞれが期待する一人称代名詞との間に〈ずれ〉が現れている。4グループともに「わたし」と「わたくし」をより多く期待しており、20代女性は「ぼく」も多く期待している。

2.4.2 社会的期待の傾向

全体的に「わたし」・「わたくし」・「おれ」・「ぼく」・「自分」など多様な一人称代名詞が期待されている。こうした中で、50代には20代より「わたくし」が多く現れており、20代にははくだけた場面で主に用いられる「おれ」が50代より多く見られるという年代差が目立つ。そして、20代においては、女性には「ぼく」が多く、男性には「わたし」が多く現れているという性差も見られる。

2.4.3 分析と考察

以上をまとめると次のようになる。20代男性の一人称代名詞の使用において、その本人の意識よりも社会的期待では「わたし」と「わたくし」をより多く期待し、4グループともにより丁寧な言葉遣いを期待するという〈ずれ〉が生じている。このような期待は、「わたくし」というもっとも丁寧な表現を20代より多く選んだ50代のほうに大きいといえよう。ただし、50代女性は丁寧な表現としてあまり認識していない「ぼく」（2.1参照）を50代男性より多く選んでいるのに対して、50代男性は丁寧な表現として認識している「わたし」をより多く選んでおり、20代男性に対する丁寧な言葉遣いへの期待は、50代男性のほうに大きいように見受けられる。一方、20代女性が男性形の「ぼく」を多く選んでいるのは、2.1で指摘したように、「わたし」を20代男性が使用するには丁寧すぎる一人称代名詞として認識しているためだと考えられる。その結果、20代女性はより男らしい表現を、20代男性はより中立的な表現を期待している。

また、20代は、20代男性に対して「おれ」も期待していたが、このような現象は20代男性の本人の意識にも現れていた。ここから、20代は「おれ」を親しい間柄のみならず、あらたまった場面においても使用できる一人称代名詞として認識し始めているように推測される。

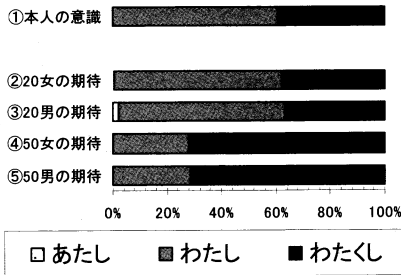
なお、20代男性の一人称代名詞の使用に対する50代男性の期待は、50代男性の本人の意識と似ている。ここから、50代男性は自分と同様な言葉遣いを20代男性に期待しているといえる。

2.5 50代女性の一人称代名詞の使用に関して(図4)

2.5.1 本人の意識と社会的期待の〈ずれ〉

50代女性が使用するとして選んだ一人称代名詞(①)と、50代女性に対して、50代女性(④)・50代男性(⑤)それぞれが期待する一人称代名詞との間に〈ずれ〉が現れている。2グループとも50代女性の本人の意識よりも「わたくし」を大幅に期待している。

図4 50代女性の一人称代名詞に関して



<本人の意識と社会的期待の比較>

- ①と②: $\chi^2(2) = 0.616, p=0.735$
- ①と③: $\chi^2(2) = 1.809, p=0.405$
- ①と④: $\chi^2(1) = 18.055, p=0.000^{**}$
- ①と⑤: $\chi^2(1) = 14.934, p=0.000^{**}$

<社会的期待の傾向>

- ②・③・④・⑤の比較
- 全体: $\chi^2(6) = 48.030, p=0.000^{**}$
- 性差: $\chi^2(2) = 1.578, p=0.454$
- 年代差: $\chi^2(2) = 46.594, p=0.000^{**}$

2.5.2 社会的期待の傾向

全体的に主に「わたし」と「わたくし」を選んでいる。20代は「わたし」を多く選んでいるのに対して、50代は「わたくし」を多く選んでいるという年代差が目立つ。なお、20代男女の結果（図2と図3）に比べると、選ばれている一人称代名詞の数も少なく、現れている差は年代差のみで、非常に単純なパターンを見せている。ここから、社会には50代女性の一人称代名詞の使用に関する共通の認識があるように思われる。

2.5.3 分析と考察

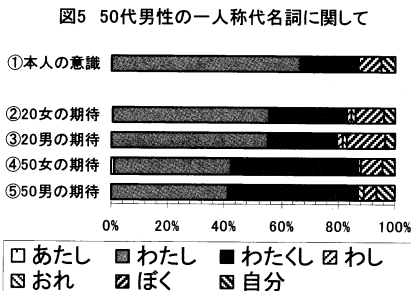
以上をまとめると次のようになる。50代女性の一人称代名詞の使用において、その本人の意識よりも同年代の50代たちが「わたくし」をより多く期待し、より丁寧な言葉遣いを期待しているという〈ずれ〉が生じている。このような〈ずれ〉はあるものの、50代女性に丁寧な言葉遣いをしてほしいという期待が社会全般に抱かれていることが、以下のような社会的期待の全体的な傾向から推測される。

50代女性に対する4グループの社会的期待を、20代女性(図2)・20代男性(図3)・50代男性(図5)それぞれに対する4グループの社会的期待と比較してみよう。すると、50代女性に対する4グループの社会的期待のほうに、もっとも丁寧な表現の「わたくし」の割合が圧倒的に多いことが分かる⁽³⁾。20代につい

ていえば、20代は、丁寧すぎる一人称代名詞として認識している「わたくし」を(2.1参照)、他グループに対してよりも50代女性に対して多く期待したことになる。また、20代は、50代女性に対して「わたし」を多く期待しているが、「わたし」の丁寧度に関しては、50代より20代のほうが、丁寧な一人称代名詞としての認識が強い(2.1参照)。このように考えると、50代女性に対する社会的期待において、20代より50代のほうが「わたくし」を多く期待している年代差は見られるものの、20代にも50代女性に対して、基本的に、丁寧な言葉遣いをしてほしいという期待があると解釈できよう。そして、50代女性に対する社会的期待において、全体的に「わたし」と「わたくし」のみが主に現れていることから、社会は50代女性に期待する丁寧な一人称代名詞として「わたし」か「わたくし」という共通の意見を持っているようである。その中から、20代は丁寧な表現として普通に使えると認識している「わたし」を、50代はそれより一段と丁寧な「わたくし」を、それぞれ主に選んだのだと思われる。

なお、50代女性の一人称代名詞の使用に対する20代女性の期待は、20代女性の本人の意識と異なっており⁽⁴⁾、さらに、50代女性の本人の意識との間に〈ずれ〉も生じていない。これは、50代女性の言葉遣いに対して自分たちとは異なる言葉遣いをすることを容認しているものと解釈できよう。

2.6 50代男性の一人称代名詞の使用に関して(図5)



<本人の意識と社会的期待の比較>

①と②: $\chi^2(6) = 4.250, p = 0.643$

①と③: $\chi^2(5) = 4.835, p = 0.436$

①と④: $\chi^2(5) = 12.123, p = 0.033^*$

①と⑤: $\chi^2(4) = 11.503, p = 0.021^*$

<社会的期待の傾向>

②・③・④・⑤の比較

全体 $\chi^2(18) = 24.481, p = 0.112$

性差 $\chi^2(6) = 2.983, p = 0.811$

年代差 $\chi^2(6) = 21.527, p = 0.001^{**}$

2.6.1 本人の意識と社会的期待の〈ずれ〉

50代男性が使用するとして選んだ一人称代名詞(①)と、50代男性に対して、50代女性(④)・50代男性(⑤)それぞれが期待する一人称代名詞との間に〈ずれ〉が現れている。2グループとも50代男性の本人の意識よりも「わたくし」をより多く期待している。

2.6.2 社会的期待の傾向

全体的に、「わたし」と「わたくし」が主流ではあるが、その他に男性形の「わし」・「おれ」・「ぼく」・「自分」も少しずつ現れている。20代には「わたし」と「ぼく」が50代より多く現れており、50代には「わたくし」が20代より多く現れているという年代差が目立つ。しかし、選ばれた一人称代名詞の種類は多いが、差は年代差のみであるため、グラフに現れているパターンは単純である。また、普段、くだけた場面で用いられる「おれ」が、非常に少ない頻度数ではあるものの、4グループ全てに現れている(20代女性(2)、20代男性(2)、50代女性(1)、50代男性(1))ことも特徴的である。

2.6.3 分析と考察

以上をまとめると次のようになる。50代男性の一人称代名詞の使用において、その本人の意識よりも同年代の50代たちが「わたくし」をより多く期待し、より丁寧な言葉遣いを期待しているという〈ずれ〉が生じている。このような50代の期待はあるものの、50代男性に丁寧な言葉遣いを期待する傾向は、50代女性に対する期待ほどではないが、ある程度、社会全般にあることが、以下のような社会的期待の全体的な傾向から推測される。

50代男性に対する4グループの社会的期待を、既に比較した50代女性に対する場合を除く、20代男女に対する4グループの社会的期待(図2・図3)それぞれと比較してみよう。その結果、20代女性に対する50代女性の期待と20代男性に対する50代男性の期待以外は、もっとも丁寧な表現の「わたくし」を、50代男性に対して多く期待していることが分かった⁽⁵⁾。このような傾向から考えると、50代男性に対する社会的期待において、20代より50代のほう

が丁寧な言葉遣いを多く期待するという年代差は見られるものの、20代にも、50代男性に対して基本的に丁寧な言葉遣いをしてほしいという期待があると、ここでも解釈できる。また、社会的期待において年代差のみが現れていることから、年代別に共通の意見があることもいえる。つまり、20代は丁寧な表現として認識している「わたし」（2.1参照）を主に、「わたくし」と「ぼく」を、50代はもっとも丁寧な表現である「わたくし」を主に、「わたし」と「ぼく」を選んでいるのである。なお、「おれ」の場合、その使用範囲の拡大という現象は、社会的期待の傾向から見て、ほんの少しの割合ではあるが、20代男性のみならず50代男性にも現れているようである。

ここで、20代男性に対する社会的期待と50代男性に対する社会的期待を、比較してみると、50代男性以外の3グループに有意差が現れた⁽⁸⁾。この3グループは、相対的に、50代男性には「わたし」と「わたくし」を、20代男性には「ぼく」を多く期待しており、50代男性にはより丁寧な言葉遣いを、20代男性にはより男らしい言葉遣いを期待している。

なお、50代男性の一人称代名詞の使用に対する20代男性の期待は、20代男性の本人の意識と異なっており⁽⁶⁾、さらに、50代男性の本人の意識との間に〈ずれ〉も生じていない。これは、50代男性の言葉遣いに対して自分たちと異なる言葉遣いをすることを容認しているものと思われる。

3. 「相手が初対面の人の場面」のまとめ

以上をまとめると、次のようなことがいえる。

- 1) 全体的に、本人の意識においても社会的期待においても、20代男性以外には「わたし」と「わたくし」が主流である。特に50代には「わたくし」が多く現れており、50代が丁寧な言葉遣いをする行為は、社会では当然のようになっているようである。20代男性の場合は、「わたし」と「わたくし」以外に「ぼく」も多く現れており、男らしい言葉遣いへの意識が本人にも社会にもあるように思われる。また、20代男性に、「おれ」の使用範囲の拡大の傾向が見られたが、上で述べた「ぼく」の使用傾向と合わせて考えると、今後、20代男性はあらたまった場面において、男性形の「ぼく」と「お

れ」をより好んで使用していく可能性がある。このような傾向は、50代男性にも「おれ」が現れたことから、50代男性にまで広がることも考えられる。

2) 本人の意識と社会的期待との〈ずれ〉を見ると、社会は、4グループに現状より丁寧な言葉遣いを期待している。ここから、言葉遣いの丁寧さに関する社会の強い規範がうかがえる。また、これは自分と同グループの同性同年代の人に対しても現れている。以上のような傾向をグループ別に見ると、20代女性に対しては20代女性と50代が、20代男性に対しては4グループ全てが、50代女性と50代男性それぞれに対しては50代が、本人の意識よりはより丁寧な言葉遣いを期待していた。ここから、本人の意識と社会的期待との間に大きな差を見せているのは、20代であり、特に20代男性であることが分かる。言い換えると、50代よりは20代のほうが社会の規範から自由な言葉遣いをしており、特に20代男性がそうであるということがいえる。20代女性に対しては20代男性だけが唯一丁寧な言葉遣いを求めているなかったが、これは20代男性のこのような傾向が同年代女性に対する期待に影響を及ぼしたとも考えられる。

3) 50代は、自分と他人の言語使用において、20代よりも「わたくし」を多く選び、また、50代自身も社会から「わたくし」を多く期待されていた。特に50代女性にこのような傾向が強く現れている。つまり、50代は、2) で見た丁寧な言葉遣いに関する社会規範を、本人たちも強く意識し、それと同時に強く期待されている集団であるといえる。特に50代女性がそうである。

4) 年代の異なる同性同士が、自分の言葉遣いと相手の言葉遣いをどのように関連付けているのかをまとめると次のようになる。20代は、自分とは異なるより丁寧な言葉遣いを、50代に期待していたが、同時に50代のそのような言葉遣いを容認もしていた。一方、50代は自分と同様な言葉遣いを20代に期待していた。50代は20代より丁寧な言葉遣いをすると意識していることが確認されたが、このような自分の言葉遣いをそのまま20代にも適用しており、20代の本人の意識よりも丁寧さを求めている。ここから、あら

たまった場面における丁寧な言葉遣いに関しては、年代を問わないという50代の厳しい姿勢と自分たちの言葉遣いへの自信がうかがえる。

4. 「相手が親しい友達の場合」と「相手が初対面の人の場合」の比較

ここでは、これまで分析してきた「相手が初対面の人の場合」の結果と前号で分析を行った「相手が親しい友達の場合」の結果を、簡単に比較する。

全体的に、くだけた場面からあらたまった場面になると、4グループともに「あたし」と「おれ」という性別の専用形式が大幅に減り、中立的な形式の「わたし」と「わたくし」が増え⁽⁷⁾、形式上、男女共用の表現が増えており、かつ、より丁寧な言葉遣いをしていた。このような全体的な傾向は、本人の意識と社会的期待との〈ずれ〉においても同様に現れていた。社会は、くだけた場面においては、女性にはより丁寧な言葉遣い期待していたが、男性には男性専用表現を多く期待し、より男らしい言葉遣いを期待していた。しかし、あらたまった場面になると、社会は、男女ともに対して中立的な表現を多く期待し、より丁寧な言葉遣いを期待したのである。このような丁寧な言葉遣いへの社会的期待は3. でも述べたように、もはや「規範」というべきであろう。「規範」という用語を用いて言い換えると、場面の丁寧度が高くなるとそれにふさわしい丁寧な言葉遣いをすべきだという社会規範は、性差より優先されていることが分かる。

このような丁寧な言葉遣いを中心に見ると、50代は非常に目立つ集団である。50代は、場面の丁寧度に関わらず、20代よりも常に丁寧な言葉遣いへの意識が強く、以上のような社会規範にもっとも忠実に従う集団であり、また、自分たちの言葉遣いを正しい言葉遣いとしても認識していた。このような傾向は特に50代女性に強く現れたが、これは「女性は丁寧に話すべき」という固定観念と社会の大人という立場、という二つの要因からであろう。

最後に、両場面の分析結果から、今後、変化の可能性が見られる一人称代名詞を提示し、本稿を終えたい。「おれ」・「わし」・「わたし」がそれである。「おれ」は場面の丁寧度に関わらず、若い男性の使用が広がることが予想でき、「わし」は多く固定観念的な知識の中で存在しており、衰退の可能性が見える。

そして、「わたし」は男女のみならず、世代によっても丁寧度の認識が異なっている。これらの一人称代名詞は、これからも注目すべきものであろう。

注

(1) 三つの観点の詳細については、金秀容(2007)「男女の一人称代名詞における「本人の意識」と「社会的期待」との比較」『ことば』28 p.27 参照。

(2) <表1>20代女性: $\chi^2(2)=45.582$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(2)=59.906$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(2)=56.146$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(2)=30.318$, $p=0.000^{**}$

<表2>20代女性: $\chi^2(3)=163.397$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(3)=160.598$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(3)=67.780$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(3)=66.555$, $p=0.000^{**}$

<表3>20代女性: $\chi^2(2)=58.575$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(2)=58.749$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(2)=88.291$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(2)=46.467$, $p=0.000^{**}$

<表4>20代女性: $\chi^2(3)=134.717$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(3)=145.345$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(3)=82.555$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(3)=56.899$, $p=0.000^{**}$

(3) <「50代女性に対する社会的期待」と「20代女性に対する社会的期待」>

20代女性: $\chi^2(2)=37.265$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(4)=34.090$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(1)=10.758$, $p=0.001^{**}$ 50代男性: $\chi^2(2)=19.072$, $p=0.000^{**}$

<「50代女性に対する社会的期待」と「20代男性に対する社会的期待」>

20代女性: $\chi^2(5)=141.674$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(5)=99.919$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(4)=46.373$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(4)=29.020$, $p=0.000^{**}$

<「50代女性に対する社会的期待」と「50代男性に対する社会的期待」>

20代女性: $\chi^2(6)=26.910$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(6)=37.074$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(5)=19.394$, $p=0.002^{**}$ 50代男性: $\chi^2(4)=12.914$, $p=0.012^*$

(4) $\chi^2(4)=60.899$, $p=0.000^{**}$

(5) <「50代男性に対する社会的期待」と「20代女性に対する社会的期待」>

20代女性: $\chi^2(6)=52.816$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(6)=52.102$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(5)=13.301$, $p=0.021^*$ 50代男性: $\chi^2(5)=14.250$, $p=0.014^*$

<「50代男性に対する社会的期待」と「20代男性に対する社会的期待」>

20代女性: $\chi^2(6)=79.782$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(5)=36.422$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(5)=15.239$, $p=0.009^{**}$ 50代男性: $\chi^2(4)=5.397$, $p=0.249$

(6) $\chi^2(5)=122.617$, $p=0.000^{**}$

(7) <本人の意識>

20代女性: $\chi^2(5)=56.847$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(6)=68.932$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(2)=49.581$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(5)=61.737$, $p=0.000^{**}$

<20代女性に対する期待>

20代女性: $\chi^2(3)=45.599$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(5)=63.835$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(2)=56.146$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(3)=30.417$, $p=0.000^{**}$

<20代男性に対する期待>

20代女性: $\chi^2(5)=189.320$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(5)=183.471$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(4)=85.150$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(5)=78.056$, $p=0.000^{**}$

<50代女性に対する期待>

20代女性: $\chi^2(2)=58.575$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(4)=58.886$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(2)=88.291$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(4)=46.467$, $p=0.000^{**}$

<50代男性に対する期待>

20代女性: $\chi^2(7)=151.574$, $p=0.000^{**}$ 20代男性: $\chi^2(5)=155.434$, $p=0.000^{**}$

50代女性: $\chi^2(6)=88.167$, $p=0.000^{**}$ 50代男性: $\chi^2(5)=70.464$, $p=0.000^{**}$

(きむ すよん・お茶の水女子大学大学院)